



左から、経済部斉場保伸部長、山口登史記者、政治部高山晶一郎部長（東京新聞本社で）

東京新聞元日号トップに「協同労働」、なぜですか 本紙が聞く

高山政治部長

民主主義再生の動きそのもの みんなが「わがこと」として

東京新聞は元日号1面トップで連載「まちかどの民主主義」を始め、第1回で「協同労働」を取り上げました。そのねらいなどについて、経済部斉場保伸部長、政治部高山晶一郎部長、経済部山口登史記者に本紙・松沢常夫が聞きました。（1面参照）

相手を尊重、時間かけ合意形成

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

―新年号を見てびっくりしました。5面の「新聞を編む」で、金井辰樹編集局長が「私たちの周りのまちかどにある『民主主義の芽』を紹介していく。民主主義は、一部の選ばれた人だけで行うのではなく、私たち一人一人がプレーヤーです」と書いておられます。

春の統一地方選挙も視野に入れて、そういうまちかどの動きに注目して、政治家たちにあなたたちも見習うべきじゃありませんかと提言していきたいというのが出発点でした。

その1回目が、なぜ協同労働なのかです。協同労働が民主主義再生の動きそのものではないかと考えたからです。労働者協同組合法の施行に伴って、今までの事業形態から転換して、協同労働に乗り出していくところも増えると思われます。

そこで経済部とテーマを考えていたところ、なんと、「話し合いをあきらめない」という素晴らしい取り組みをやっておられる、というのを聞きました。これはもう元日の新聞の見出しに、と。

「これでいける！」と思った次第なんです。私たちの場合、この言葉は、何かを決めるときもそうですが、「この人とはもう一緒に働けない」と、「排除」しがちになるのを、あきらめずに「共に働く努力をする」という意味でもよく使います。「問答無用」と戦争に突き進む動きに対して「話し合いをあきらめない！」と訴えたい気持ちも込めています。

高山 時代の流れが大軍拡、軍備を増強し、有事を想定した動きになってきている。そういう時代の空気に対して、東京新聞は「それでも話し合いをあきらめない」というところをイメージできたらいい。そんな思いもありましたね。

経済部斉場部長 編集局として「まちかどから民主主義を再生」という大きなテーマを掲げ、政治部はそのフロントランナーとして進んでいくわけですが、経済部ではどうするかと考えていた時にワーカーズコープ・セ

ンター事業団の田中羊子理事さんたちと意見交換する機会を与えていただいた。

田中さんは、協同労働という形でとにかく時間をかけて議論するとおっしゃる。「ワー

ー意見が出てくるときに、自分の意見なんか、もういい、となっちゃうことってないんですか」と聞いたら、「本

当に議論百出。だから私たちのテーマは『話し合いをあきらめない』なんです」と言

っていたのが妙に印象に残りまして。

翌日、政治部長に「こういうことをおっしゃって。これから取材しなきゃわからないけども、1つのテーマになりうるんじゃないか」と伝えたら、

やってみようという話になって。で、記者にいろいろな知恵を引き出せる

―高山さんはさっき「協同労働は民主主義再生の動きそのものではないか」と言われましたが、なぜそう考えられるのですか。

高山 労働者1人1人が経営に参画し、話し合いをしながら、いろんな課題を乗り越えていくというのですからね。

民主主義はいろんな人に意見を聞くから、

いく訓練をしていくとおっしゃっていると

思っています。

職場でも、社長とか偉い人がこうやるんだと言えはそれで決まっていますし、部下たちは考えることを放棄してしまふ。せっかくいい知恵があっても活かされない、というところがあるんじゃないかと思うんです。

：経済部の記者はこれまで協同労働の世界は取材したことがなく、あまり知識がなかったと思いますけれども投げかけてみたくです。

今回の連載企画ではいろんな事例が出てきました。取材を経た結果、やっぱり元日に東京新聞として読者の皆さんに伝えたいメッセージって何か、というところから考えて、協同労働でいこうと決まったんです。

経済部山口記者 私

は都内の保育施設を取材させていただいて、あー、こんなすごいところがあるんだなあって。円卓を囲んで皆さ

んでずっと話し合っていく。年齢とか関係なく本心に遠慮なく侃侃諤諤。記事にはならな

かったのですが、すごい勉強になりました。

斉場 企業は「効率重視」といいます。市場競争にさらされ、株主への配当などで汲々としてるところがあるって、ともすると本

当にトップダウンになる。協同労働では、ボトムアップの大事さがき

つちり機能しているというところを形として見せてもらいました。

実際、いろんなアイデアが出てきて、それを議論して、みんなが「わが問題」「わがこ

と」としてそれを取り組めるところまで、ちゃんと高めていく。そこからいろいろなもの

が生まれると思うんですね。

協同労働の現場の様子を知ると、「コミュニケーション」って本当に大事だなと思うんです。普通の会社でも、

「経営を自分ごと」

が1つのキーワードになっています。

それから、岩波ブックレット「必要」から始める仕事おこし

協同労働の可能性」の中でも、『みんなが話し合う』という格闘

というタイトルをつけて書きましたが、みんなが話し合った結果、

「リスクが大きいからやめよう」となってしまう例もあります。

斉場 それだと、どんどん縮小しちゃう。――そうなる恐れもあるんです。だから、リーダーシップが大事だと強調しています。

ところで、取材を受けた仲間に聞いたのですが、「みんなが社長

みんなが従業員」、これは違和感がある。社長とか従業員と

知見を反映させる。それは協同労働という働き方に基づく経営の強みだと思いますし、民主主義の強みともイコールだと思います。

私たち1人1人が議論を通じて、みんなが納得できるような結論を見出していく訓練を重ねていくことによって、我が国全体の民主主義に対する意識が高まってくるんじゃないかと思っています。

斉場 それだと、どんどん縮小しちゃう。――そうなる恐れもあるんです。だから、リーダーシップが大事だと強調しています。

ところで、取材を受けた仲間に聞いたのですが、「みんなが社長

みんなが従業員」、これは違和感がある。社長とか従業員と

かっていう感覚じゃない。みんなが「仲間」だということです。そもそも上下関係の世界ではないんだと。

斉場 どう協同労働の姿を短い言葉で伝えるかを考えました。外側から見ると、みんなが責任を持って、出資して、みんなが働いてるという協同労働の姿が、そのように見えました。

高山 ご指摘は今後活かしていきます。――お忙しいところ、ありがとうございます。

時代

時代

時代

時代

時代

時代

時代

時代

時代

時代

時代

時代

時代

時代